

丙

部長	課長	係員	担当	起案	23・2・22
栗原	山口		志村	決裁	23・2・22
				施行	・

第15回秦野市公共施設再配置計画（仮称）検討委員会会議録

1 開催日時	平成23年2月10日(木) 午後2時から午後4時まで	
2 開催場所	秦野市役所3階3A会議室	
3 出席者	委員	倉斗委員 佐々木委員 塩原委員 中野委員 根本委員(委員長) 藤木委員 古澤委員 特別委員(ツナミデザイン・大和小田急建設・宇都宮大学大学院工学研究科)
	事務局	栗原企画総務部長 山口公共施設再配置計画担当課長 志村公共施設再配置計画担当主幹
	補助スタッフ	出席要請なし
4 議題	(1) 秦野市公共施設再配置計画(最終案)について (2) 委員会からの提言の内容について (3) その他	
5 配付資料	資料1 E-メンバーからの意見⑩(2月7日現在提出分) 資料2 秦野市公共施設再配置計画(最終案) 資料3 秦野市公共施設再配置計画策定にあたっての提言(案)	

6 会議結果

【事務局】 本日が最後の委員会となる。一昨年12月から毎月1回、計15回開催させていただいた。市の計画をつくるために、有識者の皆様にもわざわざ御足労いただき、御礼申し上げます。私の経験では、初めてのことだと思う。改めて、御礼を申し上げます。それでは、委員長進行をお願いしたい。

【委員長】 前は欠席をし、大変失礼をした。特別委員の皆様にもわざわざ御足労いただき、御礼申し上げます。本日は最終回であるが、これで終わるのかという点も含めて、今までのまとめとこれからの話が議題になる。次第1、2、3とあり、「3 その他」が重たい議題になると思うので、スピーディーに進めさせていただきたい。え資料1と資料2の説明を、事務局から簡単をお願いしたい。

【事務局】 (資料1、資料2の内容を説明)

【委員長】 E-メンバーからの意見で、「それは行政のmatterである」と委員会が思っているというような記載があるが、この意見は何から来るものなのか。会議録からそういう感じを受けるということか。

【事務局】 このところ、これに似た意見が続いているが、特に計画策定後のかかわりに関して、委員会のメンバーが消極的な姿勢でいると感じているようだ。第三者委員会は、市長が一定の内容について審議していただく場として設けているのであって、時間や予算の制約がある中では、事務局からあらためて依頼がない以上は、それ以外のことには積極的に踏み込めないのは当然であるとの見解も示しているのだが。今までの活動に事務局としてかかわってきて、仮にこの委員会は消極的であるというのであれば、積極的に変わったとしたら、とてもではないが、事務局は対応しきれないというくらい活動していただいたという感を持っている。

【委員長】 この委員会が消極的姿勢であるととられるのは、委員長として不本意である。このことは会議録にもしっかりと残しておいていただきたい。それではどこからでも自由に御意見をお願いしたい。

【A委員】 37ページの「参考：本計画の効果額と新行革推進プラン効果額の関係」についてである。私がよく理解していないのかもしれないが、この関係から何が言いたいのかということである。青枠で囲まれた行財政改革プランと公共施設再配置計画が、一部管理運営に係る事務経費については重なる部分があるが、基本的には別個にそれぞれの効果が見込めるということを表しているのか。または、行財政改革プランの中でハコモノの活用を位置づけて、39ページには管理運営の削減効果の数字が書かれているが、その中にハコモノ部分も含んで関係するものを表しているのか。

【事務局】 行財政改革プランの39億円という額は、市政運営全体で向こう5年間に不足するのであろう見込みの額であり、それをクリアするための行革プランとなっている。市政運営全般にわたって不足する額の中には、37ページの表の下にあるように、例えばハコモノの管理運営に係る人件費や、今までのような維持補修、現在整備の進んでいる本町中学校の校舎建替えなども入っている。それらのお金については、行革プランで本来見込むべきものですよということだ。ただ、再配置計画と行革推進プランの内容がかぶる部分もある。特に、総括的事項は行革プランの内容とかぶっているので、その部分を明らかにして、これについては、再配置の考え方独自で使えるお金ではありませんということをごここに明示をしたかった。ここについては、課長とも分かりづらいかもと話していたが、なんとか書き表せないかということを出させていただいた。

【委員長】 いかがか。趣旨はそういうことだが、もう少しわかりやすく工夫していただけると良いと思う。

【事務局】 行革プランは、総合計画に位置づけた財源を確保するために、不足する部分に効果額を使うわけである。すなわち行革プランの効果額は、今生み出せるお金である。今使っているお金を幾ら減らすかである。今のままだと、39億円が5年間で足りなくなるということである。再配置と目標値が違う部分は、建替えないといけませんが、今は予算として計上しておらず、本来償却や建替えで計上しておかないといけませんが、それを複合化によって賄うと、それを効果額としてみることができ

るわけである。そこで、今あるお金を減らすという行革の部分と、再配置の部分、将来負担しなければいけない部分を削減できた部分との違いがある。そこは、そういう説明をしながらも表をつくらなとなかなかわからない。

【委員長】 やはり何か工夫できるのではないか。普通の企業でも同じことである。株主に説明をする時に、種類の異なるものを最終的に足し合わせて幾らとするので、特殊なことではないと思う。この説明でもわからないわけではないが、市民が見た時には相当色々な注釈を加えないといけない。表にまとめる前に、この構成要素のこれとこれを足したらこうなるというように分解しても良いのかもしれない。皆様からも御提案があれば、この場でなくても結構なので出していただきたい。他にいかがか。

【B委員】 5ページの中段以下について、修正前のものと見比べているが、このように表さないといけない理由を教えてください。例えば、視点1については、将来を見据えた施設配置を進めますと書いてあれば良いが、ただ「備えあればうれいなし」と書いてあっても、何を言っているのかわからない。また、施設と機能の分離、スケルトン方式による建替えという大事なメッセージが抜けた上で、なぜ施設名を並べるのか。積極的に変えないといけない理由はないのではと思う。具体的なお考えがあれば、お聞かせいただきたい。

【事務局】 5ページの1/3から下の部分は、昨年10月に策定した基本方針の主だったところに計画の概略を加えたものである。方針の考え方に基づいて今後10年間に基本計画として何をやっていくのか、より詳しく前期実行プランとして今後5年間に何をやっていくのかということを経営でわかるように入れさせていただいた。以前あったスケルトンの必要性がなくなったというようにつもりで変えたのではない。

【B委員】 先程言ったように、ここで伝えたいことはメッセージのはずなので、目次をここにつくっても仕方がないと思う。総括的事項の推進体制を書いてあっても、別段メッセージは伝わらない。また、「視点1 備えあればうれいなし」というなら、逆にもっと中身を書いた方が良い。どちらかというところ、この表は分かりづらいと思う。思い入れが強いと思うが、初めて見る人からすると、何か面白いことが書いてあるなあという位で中身が分からず、形骸化されている印象を受ける。それに対して、どうしてもこの表でなければいけない理由があるなら、教えてください。言っている意味がわからないということではない。

【事務局】 端的に言えば、見開きの2ページの中で計画まで表そうとしたスペースとの戦いであり、何らかの意図を持ってこうしたというものではない。

【B委員】 そうであるなら、委員会からのメッセージの部分をここに入れないという理由が思いつかない。正直言って、形式論の気がする。

【事務局】 これは、再配置計画全体がどういうものかを見せる表である。ことわざがあってもわからないということであるが、中身を見ないとイメージできない部分はほかにもある。初めて見る人がシンボル事業も含めて全体をイメージできるのでは

ないかという狙いで、この表を作成した。

【B委員】 そうであるなら、方針と同じままにして、もう1ページ基本計画をかいつまんだページをつくれれば良いと思う。それであれば、趣旨は満たされると思う。

【委員長】 事務局はいかがか。

【事務局】 あくまで案であり、最終的に決定するのは3月になるので、検討させていただきたい。

【委員長】 これだけ膨大なものはなかなか読んでもらえないので、簡単に理解できるものが必要であり、4ページ、5ページがそれにふさわしいのかということだと思ふ。分かりやすいかということ、少し情報量が多すぎるだろうし、効果的かということと濃淡がついていない気もする。

【事務局】 御指摘の点は確かにあると思う。

【委員長】 別に、この体裁にこだわっているわけではないだろう。

【B委員】 趣旨は果たせるような表にさせていただきたい。

【事務局】 市民の方には好評ではある。分かりやすいと。

【委員長】 なんとなくは分かってもらえる。

【事務局】 なぜ再配置が必要なのかは、なんとなく分かってもらえる。

【委員長】 なんとなくということの良さも悪さもある。B委員は悪さの方を懸念されていると思う。良さを残しつつ、誤解を招くようなところを摘み取って行く必要があると思う。全部読んだらこれで疲れてしまっていて終わってしまう。ストーリーは極めてシンプルだと思うので、メインはどこで、そこから枝葉が分かれていくイメージが良いと思う。

【B委員】 端的に言えば、31ページである。31ページを再掲しても良いと思う。元のキーワードを消しているのがもったいないと思う。あまり手間もかからず良いと思う。

【委員長】 委員の皆様も、具体的な御提案があれば教えていただきたい。他にはいかがか。各論についてはどうか。特別委員の皆様には、モデル事業の御提案をいただいたが、その他についても御意見、御知恵をいただくと大変ありがたい。

【C委員】 私は秦野市民であり、今回我々が提案した案も含めて読ませていただいた。皆様がおっしゃるとおり、これだけの厚みのあるものは市民もなかなか読まないと思う。一番読みやすかったのは、26ページから30ページにかけてである。私は、自分の住む本町地区の身近な施設がどうなるのかというところを見た。具体的な建物の名称で表現されていることが、シンプルで一番分かりやすいと思う。色々案の中には数字的なことも書かれているが、金額も大きく、市民の方もピンと来ない数字なのかなと思う。また、今回我々が提案した西中・西公民館についてもそうだが、公民館について利用率が40数パーセントと書かれていたが、市民として使っている立場からすると、予約がとりづらく、いつ予約しても埋まっているということを良く聞く。しかし、計画案には利用率が低いと書かれており、矛盾を感じる。市民からすると、どうやったら使いやすくなるのか、予約がしやすくなる

のかが一番聞きたいところだと思う。そこが、一言入っていれば良いのかなと思った。

【委員長】 今の最後の御指摘は、白書には出ているのか。

【事務局】 出ている。不足感を生む原因は、使いたい時間の集中である。利用者の主体が中高年の女性であるということから、平日の午前中に使用が集中しており、そのことによって不足感を生んでいるという分析結果はある。それに対してどうするのかであるが、一つの手段としては、昨年12月から用途で施設を探せる予約システムになっている。例えば、こういう用途に使いたいという検索をかけると、使える施設が出てくるシステムに変わった。

【委員長】 それは、当該公民館だけでなく、全施設が出てくるのか。

【事務局】 そうである。今までは、秦野市独自のシステムで、例えば本町公民館というように施設ごとに、空き時間帯の検索することしかできなかった。しかし、独自のシステムでは維持にお金がかかるということで、県が運用するシステムの共同利用になった。また、例えば、使用料金体系を工夫することによっても改善できる部分があると思う。ホールのような大きな部屋をその大きさに使う必要のない場合でも、一団体が一部屋を借りていた。真ん中で部屋を仕切る等、工夫をすれば同じ時間帯に二団体が利用でき、利用率が上がると考えている。

【委員長】 今後具体化の中で、そういうことはどこかに書いてあるか。更新投資をするかしないかというオールオアナッシングというよりは、今の稼働率を上げる、きめ細かなことがどこかに書いてあるか。そういうことを否定するものではないので。他にはいかがか。

【D委員】 施設全体の稼働率が一覧で分かるものがあると良い。今は各論のところから細分化されているので、もう少しまとまるようにしたらどうか。

【事務局】 これは計画で、その前に方針を出している。方針のところ、例えば午前中が混んでいて、午後2時、3時までは混むが、意外と日曜日は空いているというように、一般例としてお示ししている。この計画決定後は、再配置計画の方針と別々に冊子として残すのではなく、合わせて背表紙がつくしっかりしたものに装丁する。そうすると、今言われた部分も入ってくるので、もう少し施設についてもわかりやすくなると思う。

【D委員】 再配置を進める時に、どういう書き順で再配置の方針なりを決めていくのかという目安は、数字的なデータがひとつの基準になってくると思う。それが外観的に見えるようなものがあると、市民もなぜこうなるのかが理解しやすくなると思う。今は具体的に施設別に細かい数字が出ているので、全体を把握するのが難しい気がした

【事務局】 各施設別のところに載せている情報を集約したものを、6ページから10ページに掲載した。コストの情報と最後に少しストックの状況も載せている。D委員がおっしゃるように、いわゆるサービス、利用状況がどうなのかという部分については、平成21年度の全施設の利用状況のデータは入手し、分析が終わって

いるので載せることは可能である。この点については、パブコメを経た後、最終版を作成する際に検討させていただきたい。

【委員長】 それでは、他には。

【E委員】 4ページで気になるところがある。生産年齢人口が昭和60年と同じに戻ると表記がある。生産年齢人口と比較する意味合いは、ハコモノを考えるとしっくりこない。例えば、学校を使っている対象者は小学生、中学生、高校生である。また、公民館の利用者は中高年の女性が多いという話もあった。生産年齢人口について、もちろん財政規模が現在の2/3と比較するには適していると思うが、生産年齢人口でハコモノを比較するのは不思議な感じがする。

【委員長】 これは、市民税収に影響を与えるという言葉が抜けているのだろう。

【事務局】 「将来納税者となる～」というような説明が必要であろう。

【委員長】 それは合った方が良くと思う。そういう御指摘をいただくと非常にありがたい。それぞれ専門のお立場から、各論の中で技術的なことも少し書いてあるが、何か御意見、アイデアはあるか。

【B委員】 確認だけさせていただきたい。先程、C委員が目をひかれたとおっしゃっていた26ページについてである。これはイメージの話で良かったのか。その前の22ページ、23ページのような、あくまで学校を中心として展開していくということはイメージである。27ページ以降の、計画期間内に取り組み事項の赤矢印と、方針に基づく将来の方向性を示す青矢印についてだが、赤矢印が今後やりたいということ、この段階でまとめていっているのか。

【事務局】 赤矢印は、第1期基本計画内から読み取れるものを示している。

【B委員】 要約的に前に出てきており、詳しくは後ろに書いてあるが、こういうことがあるよというイメージになるのか

【事務局】 青矢印を含めると、方針全体の中では、こうなっていくだろうということを示している。

【B委員】 説明を聞いたら、良くわかった。見た人がどう思うのかなと思った。今この話を聞かなかった時には、どう思われてこれを見られるか。

【C委員】 この表は分かりやすかった。前回と比べて中身も改定されているので、分かりやすかった。やはり、建替えや廃館については、私も使っていた立場なので、見た感じ老朽化しており納得いく建物である。例えば、本町地区の曾屋ふれあい会館を廃止して、はだのこども館と機能を共有することがどこかに書いてあったと思うが、その辺は正直わかりやすかった。

【B委員】 住んでいらっしゃる方として、例えば、こうじゃない方が良いなと思っても、こうなっていくのかなど。要は、我々の議論の中で、将来まで決めきれぬわけではないという話を出さないといけないですね、という話があって、23ページの橙色のように、コミュニティ施設の機能の内容は、それぞれの地域が実情に合わせて選択ということを取り込んでいただいたという経緯があった中で、住民的な観点で見られた場合、そこが伝わるのかなど。要は、27ページしか見ない時にどう

読み取られるかなと思い聞きたかった。赤と青で書いてあると言ってしまうとそこまでだが、そこまで意識して読まれなかったのではと思った。

【C委員】 色は意識しなかった。これは縮図的なものなので、将来なくなる、統合されるのだろうなと読み取った。逆に、私の立場からすると、ひとつのものごとをつくりあげる際には、全体の計画図といったもので見ていくわけである。27ページ以降の施設でいうと、いつどうなるのかが書いていない。その辺は、もしかしたら他の人から指摘されるのかなと思った。

【B委員】 そこは、最低限の色の違いで表現をしたというわけであるが。

【委員長】 ここまで踏み込んだのは初めてである。まさに、秦野市の先見性、勇気を大変感じるし、大いに宣伝をしていただきたい。B委員が言われたとおり、あくまで機能を統合していくということで、スケルトンで多機能化をさせたところに、どんどん入れていくという。できるだけ機能を維持しますというメッセージが誤解されないようにしていく必要がある。色々なところに書いてあるので、そこは、伝える時に一生懸命頑張って伝えていただきたい。

【B委員】 ここだけ抜き出して資料をつくる時には、セットにしてくださいという運用の話だと思う。凡例はついているが、本町地区の説明だけ使ってしまうと、それだけでは足りないと思う。

【F委員】 機能がどんどん統合されていくということを見ていくと非常に分かりやすい。今後のキーとなる学校施設をスケルトンで建てていくという話があるが、これだけ初めて見ると、今の学校校舎にどんどん機能が入ってくるのかという印象を持たれてしまうかもしれない。もし計画期間内に、耐用年数がきて建替えが予定される校舎については、スケルトン方式での建替えが予測されるものについては、建替えるという文言を加えると、学校はきちんと建替えてくれながら、複合施設になっていくのだというイメージが持ちやすいと思う。

【委員長】 22ページ、23ページの青紫の枠が、スケルトンを表していると思う。それは、ビジュアルに見えた方が良くもしいない。違うコミュニティ施設になって、そこに多機能、多世代という新しい形が生まれてくるのだというイメージがつくと思う。工夫を考えていただきたい。そうしないと、学校そのものをなくさないといけなないかもしれない。しかし、多機能化することで学校を残すという極めて前向きなメッセージなので、その象徴がスケルトンと読み取れると良いと思う。

【G委員】 新総合計画と公共施設再配置計画の関連について、今後の将来計画をそれぞれの施策の執行という形で考えた時に、整合性がとれているのかはチェックしていただきたいと思う。その辺の関係性がそれぞれ別々になってしまうことがよくあるので、それに注意していただきたいと思う。

【委員長】 それは、次の議題とも関連している話なので、後ほど検討したい。

【H委員】 市民目線でこれを見た時に最後まで読むかという、なかなかそこまではいなくて、自分に関わりのあるところや全体としてどうなるのかが知りたいと思う。

【委員長】 続いて提言の内容に入りたい。少し説明させていただくが、提言の2番の幹部会を開くと言うのは、縦割りの利益を代表するのではなく、全体を知った上で、全体最適の中で自分の所掌のところを、責任をとってもらうための幹部会だと思う。企業の取締役会と同じで、事業部長は出てくるが、同時に取締役なので、会社全体のことを考えないと背任になると。そういう場合があるのかないのかわからないが、あっても機能していない。結局、事務的に課長同士がやり取りする中で、大体の力関係で決まってきて、教育委員会のところはあまり手がつけられないという。仕方がないと思っているところをそうでなくするためには、上にあげて議論をさせないといけない。

【B委員】 リーダーシップが必要だということと、市長が常にリーダーシップを本当に発揮できるかは別だと思う。そういった立場の補佐官なり、一定の権限移譲された機能も考えてみる余地がある。ただ、説教まで書いてしまうのはどうかという話になるので、上の人間が決めることも、結局下からあげていくので、下の人間で決まるという体質があるなら、前段階のところを大事である。ただ、提言の中に4、5行書かれているところをどう修正するか。逆にメッセージ性として、CFOではないかもしれないが、そうしたものがいるよということで書くかどうか。

【委員長】 アセットマネージャーを創設するとしたらどうか。副市長がなるのか分からないが、その人が市長に次いで責任を負うのだと。それはそれで矛盾はしない。これは書き方による。今思いつかないので、アセットマネージャーか、それに代わるような、市長を補佐して全体最適を司る責任者について、どこかに入れようと思う。表現はお任せいただきたい。

【I委員】 提言の2番であるが、再配置計画は施設白書の作成から今に至るまで、企画総務全体で進んできたところが特徴だと思う。今後、下りていくとなると、現場の方、例えば保全部門からアプローチするやり方もあり、それによる弊害もあるが、そういったところもあろうかと思う。公共施設の担当の所管課の中に保全課があるのかはわからないが、メンテナンスや技術系の方により過ぎてはいけないが、積極的に参加いただける要素を何かしら入れた方が良いと思う。技術系に寄りすぎると、全体からみてこういういうことが必要というより、細かな技術論が強調されてしまうこともあり、全体の長いスパンで3割減らしていくということがとん挫するといけないので。

【委員長】 まず施設と機能の分離があり、今まで機能セクションが施設の責任も持っていたので、機能の議論をしているのだけれど施設を守ることになっていた。それが、分離することによって、それぞれは機能セクションになる。そうすると、施設を面倒見る人がいないといけないので、それが新設もそうだが、維持補修、保全もそうだとすると、今言われた保全部というのとは、保全を担当するというセクションになるのか。

【I委員】 組織図がわからないが、現在は各所管課の中に保全チームがいる体制なのか、そうではなくて、全庁的に保全部があるのか。



【委員長】 資産管理部みたいなものがある、そのヘッドがアセットマネージャーで、その人は機能は一切関係なく、空間を準備する。教育委員会を含めて各部署が場所を借りに来るといようなイメージ。そうすることで、機能は機能で特化して、必要なものだけ借りに来る。今は施設まで任せているので、吸い上げられたら二度と返してもらえないと思うから絶対に手放さない。借りた方が、価格を付けるようにすれば、幾ら使っているのかがわかる。施設と機能を組織的に分離するのが究極な姿である。そこは、行政財産と普通財産の話が絡むので、今の制度の中でどこまで出来るのかの問題もあるのかなと思うが、そこまで書くか。皆様の雰囲気があるなら、提言2をグレードアップして書いても良い。

【B委員】 これは、よりCFOに近い人がやらないといけない。管財的な診断になると、アセットマネージャーという時に、かえって後退すると思う。一元的に管理をするが、管理するのに汲々とする組織で、機能と分離したばかりに減らすことが目標になることになってはいけない。そこは気になるが、ここで組織論を書きこむのは大変である。

【委員長】 ここには理想、ベストを書きたい。そのため、知恵を出していただきたい。特別委員の皆様はいかがか。皆様のお立場で、こういう行政組織だと知恵もわくし、アイデアも出せてやりやすいというのではないか。

【C委員】 基本的に縦割りがなくなったら良いと思う。

【委員長】 縦割りをなくすためには、どうしたらよいか。

【C委員】 私たちは、基本的に色々な部署にたらいまわしにされるのが日常であり、それがマイナスである。時間やコスト。それが、アセットマネージャーという統括したものから下りていく、ここにいけば必ず分かるのがあればよいと思う。全体を把握している人が明確にいないので、私はわからないからあっちにってください、とたらい回しになると思う。それを2に収束すれば良いか。うまくいえないが。

【委員長】 色々なところに参画されていると思うが、自治体によって違うと思う。ここは比較的うまくいっているという自治体はあるか。

【C委員】 あまり上手くいっているところはない。例えば、こういうことを聞きたいと電話をすると、たらい回しになる。この件はこっち、という風になる。

【委員長】 それは、機能として言っているのか、ハード的なこと自体もたらい回しになるのか。

【C委員】 どちらもである。

【F委員】 ハード的なことを決めるにあたって、ハード的な部分を担当しているといわれる部署に聞きにいくと、ハードとはいえ、機能を絡めるためのハードなので、うちは良いけど、機能の方はどうかわからない、と言われてたりする。その逆もある。明確に分かれていないので、結局どこにも聞けない状況が結構あると思う。

【B委員】 元々は市長がやってくれると良いよねということから始まって、ただ、市長が全部できるわけではないという話であった。アセットマネージャーという言葉自体が下から言っている感じがあるので、先程CFOという言い方をしたが、権

限を持って決めることが出来る人なら良いと思う。そういう人をどう明示するかだ  
と思う。市長がスーパーマンで全部やっていただけるなら良いが、実情はそうでは  
ないので、補佐官なりの専任をという議論である。市長に求めるのは良いと思うが、  
資源配分権限という話が理想だと思う。

【委員長】 民間企業ならCFOだが、日本ではないが、行政の場合はシティマネー  
ジャーである。

【B委員】 それは、体制にもよるが、ほぼ市長である。

【委員長】 いずれにしても、組織で対応しようということだが、その限界も当然あ  
るので、責任を持った人を配置して、その人が一元的にコントロールできるような  
体制をとると。その表現は工夫をさせていただき、再度皆様にメールでご連絡させ  
ていただく。他にいかがか。

【H委員】 提言の4番、市民への情報公開と市民参加だが、今まで色々な説明会を  
市民の方にされたと思うが、そこで行われていることは、結局自治会の役員、年配  
の方が多と思う。実際に、若い方々の意見をどう吸い上げるかが、今後のことを  
考えるとカギとなると思う。言葉としてどう書いたら良いのかわからないが、若い  
方の意見をうまく吸い上げるために、集まっていただくなり、意見をいただくため  
の上手い方法を御存知の方はいないか。市でもアイデアはないか。具体的に盛り込  
めると良いのではと思った。

【委員長】 若い人だけではないが、Eメンバーが一つであった。

【B委員】 Eメンバーは、あくまで委員になってもらうために選定をしたが、I  
Tという部分も活用したらということはあるかもしれない。出向くのは大事だが、  
出向いてもきてくれないかもしれない。どうアクセスしてもらえるかが大事である。  
そこを書き足すかどうかである。

【委員長】 ワールドカフェみたいなやり方もある。無作為抽出で世代を限定しない  
で、若い人に100人アポイントすれば、それなりの確立で返してくれるのが一般  
的である。そうでない場合も、穏健というか、ある意味常識的な答えが出るのが今  
までの実績である。それは収れんさせるテクニックではなく、民意がどこにあるの  
かを知るためのやり方としてはあると思う。4の最後のところに書くと良いかもし  
れないが、若い方とはどういう方か。

【H委員】 私が想定しているのは、20代、30代である。

【委員長】 それは子育て世代ということか。それとも学生も含めてか。

【H委員】 学生も含めて、この先秦野市を担っていく人々である。

【B委員】 現状、年代が偏っているのがポイントなので、偏らずにやる工夫が必要  
だということをおっしゃりたいのだと思う。そういう意味では、藤沢市でやろうと  
している取組みは大変だが、出向いて説明会をするよりは、もっと色々な方法があ  
るので、そこも書き込むかどうかである。

【委員長】 市民が参加しやすい環境をということか。

【H委員】 市長への提言なので、もっと具体的な方策をきちんと考えてくださいと

いうように、色々な世代からの意見を、実効性のあるような意見を集めることも積極的に行ってください、という言葉が入っても良いと思う。

【委員長】 具体的なものが入ると良い

【事務局】 今回の新総合計画では、無作為抽出で2千人の市民の方に市民会議の委員にならないかと案内を出し、100人の方が委員になった。一番若い方は18歳、年長は80歳台で、平均50歳台であった。無作為で最初は案内を出し、総合計画の最初のとっかかりの会議として、自由に意見を出していただいた。一昨年から始めたものである。

【委員長】 それはうまくいったのか。

【事務局】 完全ではないが、試行としてやった。また、秦野の昼夜間人口が82.4パーセント位なので、声なき声を吸い上げる方法を色々な媒体を使って広げないといけないため、そこは努力した。

【委員長】 それでも良いかもしれない。総合計画で採用したボイスオブ市民会議のようなど。具体的に書いた方が、市長が読まれた時にイメージしやすいと思う。

【B委員】 それは、討論型まではいかないのか。

【事務局】 そこまではいかない。部会をつくって、自分たちが述べたいところを分けたりはした。

【B委員】 討論型世論調査は藤沢がやっていると先程言ったが、まずは自由にやり、ステップを踏むごとにある程度資料を出しながらやると収束しやすい。ただし、大変手間はかかる。

【委員長】 他にいかがか。それでは、次第「3 その他」が今後の話になるので、場合によっては今の議論に戻っても良いが、その他について事務局から説明をお願いしたい。今回御提案いただいたモデル事業について、今後どうやっていくのか。また、第三者委員会の継続、新たな設置について議論をしていきたいと思う。まず、モデル事業についてはどうしていくか。

【事務局】 モデル事業については、元々学校の敷地内、公民館の敷地を活用して、再配置のシンボリックな事業、先程来から言われてる、機能とハコの分離や民間という部分で建築や管理運営にしても、エッセンスを入れていこうという取り組みは秦野で今までやってきていない部分である。ハコをつくるのに、横にちょこっとコミュニティ施設をつくったのはあるが、もともとハコと機能を分けてやっていくイメージは初めてである。本日、市長にもこの計画を説明した。その段階で、委員長が言われたのと全く同じで、機能と施設を分離しろと。とにかく、今度つくるのは、プールや公民館、特別教室的なものを市民が使えるというのではなくて、プール、体育館を学校が借りに来るのだと。市民が使えるようにするのだと。私どもの考えている部分とトップの考えが一致しており、具体的にそれを来年からすぐということにはならないが、市としてもPFIやPPPの取組みは初めてになるので、新しい再配置の推進を担当するセクションと、従来のところと連携して、まず市民に投げかけを行うことはすぐにでも、平成23年度前期に取り組もうと思っている。

【委員長】 前期の中で最後までいくという案件だからシンボルである。そうすると、何年にどこまでいっていないといけないかということがある。そこから遡って、4月から何をやるのかというところが提示されないと、何のためにやっているのかわからないし、間に合わなくなる。

【事務局】 具体的には47ページの③、「シンボル事業①」で、平成26年までにつくるとしている。

【委員長】 これをもっと精密に、せいぜい3カ月単位くらい、できればマンスリーに書いていただき、どういう手法をとったらどういうプロセスが必要かが想定できる。御提案いただいた内容を基に市としての方針を決めると言うプロセスがあって、公共事業か何かしらあって、必ず民間が相当な比重を占めるので、そのプロセスなり、周辺住民との調整なりがあるので、この4年間はあつという間である。やるといったらやらないと、これがこけたらどうしようもなくなる。具体的に先手を書かないといけない。そういうことを委員会としてお返しするので後はよろしくとはいかないし、具体的に4月以降それを担保するのはどうやってやるか。

【事務局】 担保するというのは。

【委員長】 組織づくりだと思う。委員会をつくるなり、特別委員の皆さんにはどう引き続き御参加いただくのか。

【事務局】 これ一つを取り上げていくのか、例えばシンボル事業を一つずつ取り上げるのか。シンボル事業という中で地域の方も入れたような検討委員会という組織をつくるのか、色々あると思う。

【F委員】 それを色々な形態がある中で、どの形態を選択して、いつ組織が立ち上がってというのをやっていくと、最後の2年は建設と設計にかかると思うので、この4月からの組織づくりなりを話し合う時間は残されていないのかなと思う。そこを具体的にこの会を終わらないと、我々も気になって仕方がない。委員会を立ち上げるには予算要求等もあると思うので、その辺を考えると自ずと具体的になると思う。それはまだ検討されていないのか。

【B委員】 新年度にこの活動のための予算はあるのか。ないなら予算をとるためのプランをつくり、補正でもなんでも良いから取るという話である。そういうのを全て言う必要はないが、あると言う形で御説明いただけると良い。場合によっては、委員長が意見が言えるのではないかと先程から思われていると思う。

【事務局】 予算は行革プランとかぶってとってある。また、シンボル事業の西中の関係については、関係の議員が6名～8名いる。実は、すでにこういう話が浮上しているから、政治的にも政策的にも課題解決の手法を一緒に考えてほしいという場づくりをもちかけた。表からみると、きちんとした内部組織をつくるが、そういう体制づくりについては始まっているのが現状である。どういう形にするかはまだ結論は出ていない状況であるが、こういうものを出す以上は、市民からみてもわかりやすくすることが必要だと思う。あそこでこういうことをやる、あの人が責任者だと。それをつくって進めたいと思っている。

【委員長】 一つのアイデアとしては、この委員会は本日で終わりだとして、後継の委員会を立ち上げて、シンボル事業が具体化する手前までは特別委員の方にも御参加いただくということはあると思う。そのやり方をどうするかを、3月までに検討いただき、場合によっては再度委員会を開いても良いかなと思う。このままだとどうなってしまうのかという感じもある。そこは提言書を本日お渡しするので、市長ともよく御相談いただきたい。いずれにしても、これだけ大仕掛けのものをやるには、客観的な検証プロセスがないともたいたくないと思う。我々が良いかはわからないが、そういう仕組みを設けざるを得なくなるので、そこと重複しないためにはこういうやり方が良いのではと思う。

【事務局】 前回の行革プランでは、審議をしていただいた方々に、その後のチェックもお願いしている。その結果、良かったと評価もされている。3月までに具体的な話として出していきたい。

【委員長】 何か進め方について御意見はあるか。

【I委員】 シンボル事業の中でも、民間の知恵を今までにないような形で活用し、シンボリックなものをつくるとなると、今までのPFIが全てではないにしても、それなりの検討、例えば、専門であればB委員とG委員と私が委員長と汗をかきながらやるのかはわからないが、一般的にPFIで取られている並みの検討のコストは早急に調べていただき、次回があるのなら、ある程度見通せないと怖いと思う。

【B委員】 設計の話で特別委員の3団体の方々も、もちろん参加できることが特典ということで、逆にそれしかないのに、一生懸命提案していただいた。一方で、その後のやる気によっては、コンプライアンス上という観点もあるかもしれない。早めに、どういうことをするかという中で逆に問いかけられないと、皆さんの立場はやる気がないかもしれないので。そういう意味でも、最終まとめについても発言しようがないよねと。せっかくきていただいて、ただ傍聴する権利をインプットされているわけではないと思う。そこで色々なインプットができれば、その場をどう入れるかということも含めてだと思う。

【委員長】 後7分位時間があるので、特別委員の皆様は全体について、今後の御要望などいただきたい。

【E委員】 こういう委員会に参加することは我々にとってあまりない機会なので、非常にありがたい機会だと思っている。なかなか難しくあまり発言できなくて申し訳ないが、自分としては、今後も積極的に使っていただきたい、コンプライアンスという問題もないので、積極的に参加させていただきたいと考えている。そこら辺がどうなるかはこちらからお願いするものではないので、決まればお知らせいただきたい。

【C委員】 我々の立場からというより、今回こういう場で参加させていただき、組織の在り方、行政だろうと民間だろうと難しい面があるのだと改めて思った。提言の2番で、誰がリーダーシップをとるのか、事業を統括する組織なり人は誰なのかによって、今回の計画案の案がとれてより具現化するのかなと思う。市民の立場と

いうこともあり、今後見守って行きたいと思う。

【D委員】 先程実行プランの期間の話があったが、4年間は、建設で2年かからないにしても、18カ月位かかるとすると、実質的にあまり時間がないのが現状である。市民の声を吸い上げることも考えながらワークショップをして設計することになると、前段階の庁内の調整を早くしていただき、具体的な話が十分できるように時間の確保をお願いしたい。

【委員長】 ありがとうございます。本日が最終回にはならないような気がする。原則3月に開催する方向で調整をさせていただきたいが、事務局はいかがか。

【事務局】 もともと予定回数以上に熱心に御議論いただいている。報償費を支給できるかどうかは、わからないがそれでもよいのか。

【委員長】 それでは、報酬はなしで、委員懇談会の形でも良いので、出られる人は出ていただきたい。今後の体制についての宿題だが、シンボル事業については先例をださないと議論ができない。もちろん我々の目でもチェックする。ボランティアで出ていただける方はお願いしたい。

【事務局】 それでは、副市長にもスタンバイしていただいているので、入室いただきたい。

#### —副市長入室—

【委員長】 本日が最終回の委員会であり、再配置計画案について審議をした。それに伴って、検討委員会から市長あてに今後の進め方について御留意いただきたい事項をまとめたので、お渡しする。ポイントは、客観的な数字情報が大切であり、大変素晴らしい白書をつくられたので、これを継続して分析をしていただきたい。また、庁内の推進体制が重要だと思う。市長のリーダーシップはもとより専門的に取り扱う権限のある方、部署の体制を構築していただきたい。また、計画は持続可能でなければいけないので、監視検証、PDCAサイクルを十分まわしていただきたい。委員会はこれで終わりだが、来年度以降も客観的な立場からの第三者委員会は必要なので、ぜひ設置をしていただきたい。また、市民に積極的に情報公開して、同じ目線で参加しやすい環境に配慮していただきたい。最後に、民間、今回シンボル事業の特別委員の方々だが、今後のプロジェクトでもできるだけ民間のアイデアを尊重して、費用対効果の高い行政に努めていただきたい。以上である。

【副市長】 確かに御預かりした。

【事務局】 御提言をいただいたことに礼を言う。中村副市長から御挨拶いただきたい。

【副市長】 平成21年から15回にわたり、委員長を始め、委員の皆様には本当に御苦勞おかけした。市としては白書をつくって、方針をつくり、本日議論いただいた再配置計画と、私も何回か途中で目を通させていただいたが、秦野発で素晴らしい色々な再配置計画が盛り込まれている。また、シンボル事業についてアイデアを御提案いただいた皆様にも御出席いただき、色々なこれからの計画の実現について、

ぜひ皆さんの目から絶えずチェックをしていただく組織をつくらないといけないと思っている。先日も企画総務部長と打ち合わせをしたが、委員長が言われるように、この計画をまず職員がしっかりと理解をして、取り組んでいくスタンスについて足元をかためない、何も意味がないと思う。1200名の職員がそれぞれの立場にいるが、少し力をいれて、職員にまず理解させることが一番大切だと思う。その後、できれば先生方にも色々な御知恵をいただき、しっかりした進行管理の体制を整えて実施することが必要だと思う。しっかりと根をおろしてやり、どうしたら市民にも理解いただけるのかということも課題だと思う。事務局の職員も一生懸命やっていたと思っているが、先生方が15回にわたって有識者の意見としてまとめあげた計画について、今言ったように庁内でしっかりととらえ、新総合計画と新行財政改革プランの3本柱の中では、これがリーダー計画となるので、ぜひしっかりと受け止め、実施していきたいと思う。どうぞこれからも色々な形で御意見をいただきたいと思っている。本当に礼を言う。

**【事務局】** 以上で、会議は閉会させていただく。先程話にもでていたが、再配置の計画だが、この後庁内で案を決定し、また、パブリックコメントを2月17日から1ヵ月間行い、3月末までに確定する予定で考えている。先ほど委員長が言われた懇談会については、最終形ができる時点で、再度、御足労ねがう形で検討していきたいと考えている。よろしく願います。

－ 閉会 －

※ 委員名のアルファベットは、発言順に付したものであり、前回以前の会議録との整合はありません。